

(別記様式)

平成24年度 京都府立宇治支援学校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン) 前期 (計画段階 ・ **実施段階**)

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>京都府の特別支援教育を牽引し、地域社会におけるノーマライゼーションを推進する学校として以下の方針に基づいた学校経営を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 教育理念「喜びはともにあること」の下、教育目標「自律」を実現するための教育を全ての学部をおして行う。 ◆ 地域社会の中にある学校として、地域と連携し、地域に役立つ学校を目指す。 ◆ 京都府スーパーサポートセンター (以下、SSCと言う) の機能を生かし、各地域支援センター、総合教育センター等と連携し、京都府内全域の特別支援教育を進展する。 	<p>開校初年度にあたり、左記の経営方針を、組織運営、教育実践に具体化し、また、積極的な発信に心がけてきた。これまでの学校とは異なる運営システムと教育実践の在り方から、当初は戸惑いも見られたが、一貫した方針と丁寧な説明対応、学校公開等による情報の公開、そして何よりも児童生徒が自律に向けた力を付けてきていることから多くの理解を得てきており、学校評価においても、継続した取組に賛同を得ている。また、社会自立につながる職業教育、キャリア教育、地域社会との協働による教育の姿を具体化してきており、こうした方向性を更に進めることが課題となる。</p>	<p>【教育目標「自律」を実現する特別支援教育の更なる推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教科等を合わせた指導を中核とした授業の質の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・SSCとの連携による授業改善の推進 ・担任が指導する自立活動の更なる推進 ・学年制のメリットを生かしたキャリア教育の推進 ○教職員の指導力の向上 ○学年制を生かした地域学習の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・年間カリキュラムの整理と系統化 ○一人一人の将来の姿に合わせた希望進路の実現 <p>【SSCによる、子どもと保護者に届く特別支援教育の更なる推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○府内関係機関との信頼関係を強化し、役立ち感の実感を丁寧に確認しながら、活用の実効性を広げる取組を推進する。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	・適正且つ効率的な学校経営の推進	・学校経営方針を各学部等で具現化するスモールマネジメントの実施	B	<p>学校経営方針を各学部等の方針に具体化し、重点目標の達成に向けたマネジメントを推進している。計画的予算執行には課題が残る。衛生委員会を立ち上げ「ノーマライゼーション」等の取組を推進している。</p> <p>人材育成部を中心に初任者研を含む職員研修を自己啓発と学んで欲しい内容の両観点から実施している。</p> <p>HPは平均10回の更新により、特徴的な情報をタイムリーに発信している。地域貢献授業は、公園清掃を実施。地域公開事業は、現在未実施。</p> <p>府内関係機関への訪問等の丁寧な取組により、理解と活用が一層進んできている。視覚・聴覚相談、研修支援のニーズが高い。計画的に前期に予定の事業を推進してきた。授業改善研究は、後期に実施。</p> <p>3回の学校公開を計画的に実施。</p>
		・予算計画に基づく計画的な予算の執行 (定期点検の実施)	C	
		・「ノーマライゼーション」の実施等によるメリハリのある勤務の推進	B	
	・人が育つ研修会等の計画的推進	・ニーズに基づいた研修会の企画実施 (10回/年 以上)	A	
		・医療専門職派遣事業等の活用による外部人材の活用	B	
	・ホームページ等による多角的な学校情報の発信 ・地域に貢献する授業や事業の推進	・HPによる積極的情報発信 (更新 5回/月 以上)	A	
		・地域清掃等の地域貢献型授業の実施	B	
		・地域住民等が参加できる諸事業の実施 (3回/年 以上)	C	
	・京都府スーパーサポートセンターの機能を生かした相談支援、研修研究の更なる推進 ・地域支援センターうじの機能を生かした、授業改善に繋がる相談支援の推進 ・宇治市・城陽市と連携したネットワークの形成	・スーパーサポートチームを活用したニーズに応じた相談支援の実施	B	
		・授業改善研究の実施 (研究結果の発信)	C	
・SSC研修会の計画的実施 (10回/年 以上)		B		
・各市関係機関との連携協議会の開催 (2回/年 以上)		B		
・保護者、地域住民による学校評価を活用した学校経営、授業実践の改善	・学校公開日の計画的実施 (1回/月)	B		

	<ul style="list-style-type: none"> アンケート等による自己評価の実施及び公開（2回/年 以上） 学校評議員会議（3回/年 以上）の開催及び第三者評価の実施 	B		前期末に保護者アンケートを実施。学校関係者会議1回目会議を実施し、23年度方針を説明し、意見をいただく		
・安心安全を具体化する取組の推進	・防災計画の見直し及び避難訓練の計画的実施（2回/年 以上）	B	B	防災計画を一部見直し、基づいた避難訓練を実施。消防署との連携による緊急時訓練を実施し、効果的であった。医療的ケアに関しては、安全委員会の定期開催によって、課題を共有した組織的動きがとれるようになった。安全点検は8月から毎月実施の方向。		
	・医療的ケア安全委員会（1回/月）による安全で適正なケアの実施	B				
	・緊急時対応訓練の実施（2回/年 以上）	B				
	・教具等の安全点検の組織的な実施（2回/年 以上）	B				
教育課程・学習指導 <ul style="list-style-type: none"> 地域の関係機関等と連携した系統的な地域学習の推進 PDC Aサイクルに基づく実践評価 全ての教育活動において行う自立活動の推進 交流及び共同学習の計画的な推進 	・学年進行を意識した系統的な地域学習の実施	B	B	学部の意向を丁寧に受け止め、地域と連携し、児童生徒の生活を豊かにする地域学習を更に具体化してきている。「キャリア教育プロジェクト」を立ち上げ、関係分掌が役割分担をし、一体的にキャリア教育を軸に授業改善を目的とした取組を進めてきている。保護者学習会等の実施により、自立活動の意義理解が進んでいる。授業における位置づけと指導の充実が継続課題。		
	・授業公開、授業研究の実施（各学部 5回/年 以上）	B				
	・個別の指導計画を活用した授業評価の実施	B				
	・自立活動支援担当の機能を生かした担任が行う自立活動の充実（肢体不自由クラスにおける個別の指導プログラムに基づく指導改善の実施）	B				
	・ニーズに基づく居住地校交流の計画的な実施	B				
	・各コースにおける希望進路の実現（企業就労 5名以上）	B			B	夏期休業中に全校での企業開拓を実施。進路相談、実習等を関係機関、保護者と連携して進めている。進路指導・キャリア教育担当からの積極的な発信もあり、高等部における作業学習を一つのモデルとして、各学部での職業教育に広がりが見られている。
	・組織的な企業開拓の実施	B				
	・個別の教育支援計画に基づいた計画的組織的な進路指導の実施	B				
・ものづくり、サービスを一体化させた宇治支援独自の作業学習、職業教育の実施	B					
・カフェJOYを中心とした宇治支援学校の特性を生かした作業学習、職業教育の推進	・進路指導・キャリア教育担当の機能を生かした各学部における授業の改善	B				
・各学部における系統性のあるキャリア教育の推進						

学校関係者 評価委員会 による評価	
-------------------------	--

次年度に 向けた改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度、重点目標の達成に向けて、達成地点を具体的に設定し取組を推進すること（「出来るところまで」ではなく）。 ○安心・安全の観点から、事後対応ではなく組織的・計画的な点検等を行うこと。 ○会議等の精選・見直しを進める等、効率的な学校経営に一層取り組むこと。
-----------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------